

情報処理学会論文誌「教育とコンピュータ」の 編集にあたって

西田 知博^{1,a)}

1. 第4巻第3号の刊行にあたって

本年度4月より、「情報処理学会論文誌：教育とコンピュータ」(IPSJ Transactions on Computers and Education, TCE)の編集委員長を務めております。前号でも紹介されていましたが、TCEの編集委員会は2014年4月に発足されたため、TCEを創刊した第1期の編集委員の多くは4年の任期を終えて退任し、4月からは新しい体制での運営が始まっています。編集に携わるメンバは大きく変わりましたが、これまでと同様に優れた情報の教育実践に関わる論文を育てていくトランザクションであり続けたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

さて、2017年3月に小学校、中学校、2018年3月に高等学校の新しい指導要領が公示されました。プログラミングに関しては、大きく話題となった小学校での必修化に加え、中学校でも従来の計測制御に加え、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツを作成することが盛り込まれたり、高校でも共通必修科目である「情報I」が設置されることにより、すべての生徒がプログラミングを学ぶようになるなど、その教育の重要性が増すことになりました。一方、教育現場においてのプログラミングに対する不安は大きく、小学校では「プログラミング的思考」を育むという名目の元、ともすればコンピュータを使うことを避けようとする動きも見られます。一方で、おどろきな教育により、プログラミング嫌いの子どもの増やすのではないかとことも懸念されています。このようなときであるからこそ、本トランザクションのような場において、多くの教育現場の方々への参考になるような実践の紹介をしていただき、そのような不安を減らしていくことが重要です。TCEは「ショートペーパー」というカテゴリーを設けており、教育現場での実践を発展途上であっても紹介していただけるようになっています。このような場を通じて、皆様が行われているさまざまな実践を成果として公にいただければと思っております。

このほかに、政府が行っている5月の未来投資会議にお

いて、現在行われているセンター試験の後継である「大学入学共通テスト」での「情報」の出題を検討することが表明されました。新学習指導要領に対応した2024年度の試験からの導入を目指すということですが、時間は迫っており、大学入試センターから情報処理学会に対して問題素案提供の要請が行われるなど、動きが活発化しています。この分野においても、皆様のこれまでの研究が今後大きく影響を与えると考えますので、ぜひ、幅広い知見を本トランザクションに寄せていただけたらと思います。

2. 本号掲載論文の紹介

本号では、招待論文1編を含み、2編の記事を掲載しています：

- 招待論文「Post-Truth時代の情報リテラシー教育」ではフェイクニュースなど虚偽の情報によって人々が大きく影響を受け、真偽よりも共感で情報が選択されてしまいがちな「Post-Truth」時代と呼ばれる現代において、どのような情報リテラシー教育が必要かが述べられています。新学習指導要領で「データ」が重視されるという流れの中、単なる調べ学習ではなく、データに基づいた真偽の検証を行うファクトチェックの重要性が紹介されています。
- 「情報モラルそうかんず：複数の視点から事例を見る情報モラル指導用教材の開発と授業実践による評価」では1つの事例を複数の登場人物の視点から見ることができるようにしたことと、その登場人物の相関図を示すことによって、情報モラルに対する深い理解を狙った小学校高学年対象のWeb教材の開発について紹介されています。漫画を交え、身近となった動画配信に関するトラブルを題材とした教材は児童の大きな関心をひき、1時間の授業でもさまざまな見方から情報モラルの問題を考えさせることができることが示されており、同様の教材の開発によって初等教育における情報モラル教育の充実が期待できる内容となっています。

¹ 大阪学院大学
Osaka Gakuin University

^{a)} nishida@ogu.ac.jp